

岐阜県政記者クラブ加盟社各位

令和８年１１月２５日（水）　岐阜県発表資料			
担当課	担当係	担当者	電話番号
森林活用推進課 森林吸収源対策室	森林吸収源対策係	三輪	内線 4346 直通 058-272-8821 FAX 058-278-2702

第５回ネイチャーポジティブ研修会を開催します

森林の機能は、生物多様性の保全や土砂災害の防止等にとどまらず、自然資本として経済的に評価・活用される段階に入りつつあります。

こうした潮流への理解を深め、本県の森林・林業施策に反映するため、各分野の専門家を招いた「ネイチャーポジティブ研修会」を開催しています。

第５回となる今回は、生物多様性を意識した森林施業や森林のゾーニングのあり方などについて学ぶ機会となるよう、下記のとおり開催します。

記

１　**日　　時**　令和８年１１月３０日（月）１３：３０～１５：００（１３：００開場）

２　**場　　所**　県庁１８階　会議室１８０４・１８０５

３　**講　　師**　宮崎大学　農学部　農学部門　森林環境持続性科学領域
教授　伊藤（いとう）　哲（さとし）　氏

４　**講演内容**　森林施業を通じた生物多様性向上とネイチャーポジティブの実践

５　**対 象 者**　林業・木材産業関係者、国・県・市町村職員等（５０名）

＜参考＞

１　ネイチャーポジティブとは

ネイチャーポジティブとは日本語訳で「自然再興」といい、「自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させる」ことを指します。

国内では、2023 年 3 月に閣議決定した「生物多様性国家戦略 2023-2030」において、2030 年までにネイチャーポジティブを達成するという目標が掲げられています。

２　自然資本とは

自然環境を国民の生活や企業の経営基盤を支える重要な資本の一つとして捉える考え方です。

自然資本は、森林、土壌、水、大気、生物資源など、自然によって形成される資本（ストック）のことで、自然資本から生み出されるフローを生態系サービスとして捉えることができます。

自然資本の価値を適切に評価し、管理していくことが、国民の生活を安定させ、企業の経営の持続可能性を高めることにつながると考えられます。

３　今後の開催予定

回数	開催日（予定）	内容（予定）
第６回	1 月 19 日(火)	講師：九州大学工学研究院 環境社会部門 教授　馬奈木 俊介（まなぎ　しゅんすけ）　氏 ・ボランタリーカーボンクレジット市場の世界的な動向と今後の展望。 ・自然資本、ネイチャーポジティブとの連携を見据えた、地方自治体運営による独自クレジットの方向性について学ぶ。

４　これまでの開催実績

回数	開催日	内容
第１回	7 月 29 日(水)	講師：東京大学大学院農学生命科学研究科 教授　橋本 禅（はしもと　しずか）　氏 ・ネイチャーポジティブに関する総論（演題:ネイチャーポジティブ－新しい時代の生物多様性保全－）。 ・生物多様性に関する国内外の新たな潮流について理解を深める。
第２回	8 月 26 日(水)	講師：合同会社楠山（くすやま） 代表社員　吉水 純子（よしみず　じゅんこ）　氏 ・クロモジの活用から学ぶ森林の新たな価値創出ビジネスモデルの実践例を紹介（演題：森と人の共創関係　最強の共創相手は自然）。 ・「蒸留の村」構想（長野県根羽村）による上下流をつなぐ流域経済圏づくりについて学ぶ。
第３回	9 月 15 日(火)	講師：ネイチャーポジティブ技術実装研究センター 副研究センター長　保高 徹生（やすたか　てつお）　氏 ・産業総合研究所の有する最新の計測技術（環境ＤＮＡや衛星データ解析など）の紹介。 ・自然資本への依存・影響を「見える化」する新たな計測技術について学ぶ。
第４回	11 月 13 日(金)	講師：青葉組株式会社 代表取締役　中井 照大郎（なかい　しょうたろう）　氏 ・育林コストを企業投資で賄う新たな資金調達の仕組みと、その事業性について実践例を紹介。 ・生物多様性に配慮した森づくりを通じて自然資本の質を高め、企業価値の向上につなげる林業ベンチャーの現場に学ぶ。